

2022年2月17日掲載 カーゴニュース

第一貨物

大型投資PJの効果発揮へ

新「東京支店」が営業開始

第一貨物（本社・山形県山形市、米田総一郎社長）は14日、東京都江東区塩浜に新築移転した「東京支店」の営業を開始した。同社の旧「東京支店」（江東区東雲）は建築後52年が経過。老朽化対策と土地の高度化利用が課題となっていたことから大型設備投資プロジェクトである「東京プロジェクト」の一環として新築移転した。大和ハウス工業が旧支店の同区内の近接地に開発した「DPL江東深川」（延床面積13万8160㎡）を区分所有（1万8460㎡）し、同施設の2階フロアと1階の一部を同社が利用する。米田社長は施設竣工にあたりメッセージを発信し、「新しい



施設の外観

東京支店は旗艦店として従来と同様の業容とし、ほぼインドアで風水害に強いなど、アピールポイントが多い」と述べ、「全社一丸となって『東京プロジェクト』の大型投資の効果を早期に発揮していく」と表明した。新「東京支店」は同社最大規



“密”を避けて間隔を保った社員食堂

模の事業所で、昨年9月に既存支店を集約して開設した山形支店（山形市）とともに2大旗艦店として活用する。1日当たりの取扱貨物量は約700tの予定。施設の2階部分を荷捌き場として活用。幹線運行用と集配用を合わせて83バスを設備した。床荷重は1・5t/㎡とし、自家用給油スタンドと洗車場を備える。建物は地上7階建てでプレキャスト・プレストレ

ストコンクリート（PCaPC）造。柱頭部免震構造とすることで高度な免震機能がある。庫内、トラックバス、駐車場、車路の照明は高天井LED照明とした。カプセル式の仮眠室や休憩室、シャワールームなどを設けるなどドライバーの働きやすさにも配慮した。■